

令和元年6月23日現在

機関番号：25201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11516

研究課題名(和文) 看護師の臨床判断プロセスを基盤とした臨床判断能力尺度の開発

研究課題名(英文) Development of clinical judgment ability scale based on nurse's clinical judgment process

研究代表者

川瀬 淑子 (KAWASE, Yoshiko)

島根県立大学・看護栄養学部・講師

研究者番号：80642652

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：看護師の臨床判断力は重要といわれているが、日本において臨床判断力を評価する尺度はみあたらなかった。そこで本研究では看護師へのインタビューから臨床判断プロセスにおける臨床判断力の要素を抽出し、44項目からなる尺度原案を作成した。郵送法による自記式質問紙調査を実施し、610人を分析対象に、項目分析、探索的因子分析、確証的因子分析、信頼性係数の算出により信頼性と妥当性の検証を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で開発した臨床判断力尺度を活用することによって、看護師は臨床判断プロセスにおいてどのような臨床判断力が必要か可視化できると考える。特に新人看護師教育における自己評価として役立つと考える。

研究成果の概要(英文)：It is said that nurses' clinical judgment is important, but there is no scale to evaluate clinical judgment in Japan. Therefore, in this study, we extracted the elements of clinical judgment in the clinical judgment process from interviews with nurses, and created a scale draft consisting of 44 items. A self-administered questionnaire survey by mail method was conducted, and 610 persons were subjected to analysis of item analysis, exploratory factor analysis, corroborative factor analysis, and calculation of reliability coefficient to verify the reliability and validity.

研究分野：基礎看護分野

キーワード：臨床判断力 看護師 尺度開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

医療の高度化、複雑化、患者の高齢化に伴い臨床場面の看護師には、高度な看護実践能力がますます求められている。その中でも臨床判断力は、即時に看護の優先順位を決定したり、多重課題に対応していくために必要な能力といえる。臨床判断は「患者のデータ、臨床的知識、状況に関する情報が考慮され認知的な熟考と直観的な過程によって患者ケアについて決定を下すこと」と定義されているように (Corcoran, 1990) 論理的な思考と実践的な思考があいまった複雑な様相をもっているといえる。臨床判断の要素として、看護師がもたらす状況に影響を受けること、患者の反応のパターンがあること、発生状況やケアユニット (病棟) の文化が背景として影響すること、看護師は多くの推論パターンをもっていること、実践の振り返りは臨床判断の分析と臨床知の発展、臨床推論の改良のための批判により引き起こされることが明らかになっている (Tanner, 2006)。看護師の臨床判断力については、実践知が重要であり (Corcoran, 1990; Benner, 1992) 特に達人看護師の卓越性が関係することが明らかになっている (Benner, 2015)。また、臨床判断力は経験の積み重ねだけでなく、経験の質、個人の質が関係することが報告されている (吉田ら, 2002)。

臨床判断力について、経験豊かな看護師の実践知が必要といわれているものの、一体どのような能力なのか、その要素を含め、全容は未だ明らかにされていない。clinical judgment model (Tanner, 2006) において、「背景」「予測」「初期把握」「解釈」「反応」「リフレクション」といった看護師の臨床判断のモデルが示されている。このモデルは、看護師がある臨床場面において、患者の状況に気づき、多くの推論パターンを駆使しながら、分析的あるいは直観的、物語的に思考し、介入しその結果を振り返り、次の判断場に活かすというものであり、臨床判断は一連の問題解決型の思考プロセスをもっているといえる。臨床判断プロセスにおいて、どのような判断力が必要とされるかを明らかにすることは、看護師の臨床判断力を育成するうえで重要であると考えられる。

臨床判断力を測定する尺度にはConfidence in decision-making scaleがある (Rhodes B, 1985)。これは「倫理的側面」26項目、「診断的・治療的側面」41項目から成り、看護師が日常的に行っている臨床判断の頻度を測定した尺度である。

しかし、看護師の臨床判断力育成のためには、看護師が判断し看護行為に至るまでどのように思考したか、どのような能力が必要かを明らかにする必要があると考えられる。そこで、本研究ではclinical judgment model (Tanner, 2006) を基盤とした看護師の臨床判断プロセスから臨床判断力の要素を明らかにし、臨床判断力尺度を作成することを目的とした。このことにより、看護師は臨床判断プロセスにおいてどのような臨床判断力が必要か可視化でき、特に新人看護師教育を行う際の資料となると考えた。

2. 研究の目的

看護師の臨床判断力の要素を明らかにし、臨床判断力尺度を作成することを目的とした。

3. 研究の方法

1) 臨床判断力尺度の質問項目の作成

Tanner の作成した clinical judgment model (Tanner, 2006) を用い、「背景」「予測」「初期把握」「解釈」における臨床判断力の要素を明らかにし、その要素をもとに臨床判断力尺度を作成した。

(1) 調査対象

A 県内に勤務する専門看護師 5 名、認定看護師 3 名、計 8 名。

(2) インタビュー内容

研究参加者に日頃の看護実践における臨床判断を行う場面において、何に気づいたか、なぜそれ（の内容に対して）に気づいたか、患者さんがどのような状況か予想できたか、患者さんに何が起きていると思ったか、患者さんに起きている状況をどう捉えたか、ケアの方向性についてどのように考えたかについて半構成的インタビューを行った。

(3) データ分析方法

インタビュー内容から逐語録をおこしコード化し、類似性に着目しサブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。「背景」「予測」「初期把握」「解釈」それぞれから抽出されたサブカテゴリーと文献レビューから検討し、計 44 項目からなる尺度原案を作成した。

(4) 倫理的配慮

本研究は島根県立大学出雲キャンパス研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号 186)。研究参加者所属の看護管理責任者、研究参加者に対し、研究の目的、方法、研究の参加は自由意志であること等について文書と口頭で説明し、同意を得て実施した。

(5) 臨床判断力尺度原案の検討

作成した尺度原案について、臨床の看護師 3 名と研究者計 5 名で質問項目の検討を行った。その後、臨床判断力の要素の抽出のためのインタビューに参加した A 県内の専門看護師、認定看護師に質問項目を提示し、文章表現の検討を行い、内容的妥当性の確保に努めた。

2) 尺度の信頼性・妥当性の検証

(1) 調査対象

看護管理責任者の許可が得られた病院の一般病棟、精神科病棟、CCU, ICU に勤務する看護師（管理者は除く）。

(2) データ収集方法

各都道府県別の厚生労働省労働局の HP に記載されている 300 床以上の病院のうち、無作為抽出した 300 の病院中、看護管理者の同意が得られた 28 病院の看護師を対象に郵送による無記名自記式質問紙調査を行った。

(3) 調査内容

基本属性（研究参加者の性別、年齢、病院の設置主体、最終学歴、看護師経験年数、勤務している部署の経験年数、勤務している部署の看護体制、勤務領域）、臨床判断力尺度原案。尺度の評定は「あてはまる」5 点、「ややあてはまる」4 点、「どちらかといえばあてはまる」3 点、「あまりあてはまらない」2 点、「あてはまらない」1 点の 5 段階で回答を求めた。

(4) 分析方法

基本属性の単純集計、項目分析を行った。因子妥当性の検証のため、探索的因子分析にて質問項目の選定を行ったのち、確証的因子分析を行い、モデルの適合度の判定を行った。内的整合性の検証には Cronbachs' 係数を算出した。統計解析には SPSS Statistics24、Amos23 を使用した。

(5) 倫理的配慮

本研究は島根県立大学出雲キャンパス研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号 241)。対象となる施設の看護管理責任者に対し、研究の目的、方法、研究の参加は自由

意志であること等について文書と口頭で説明し、同意を得て実施した。調査への回答をもって同意があったものとみなした。

4. 研究成果

配布数 1444、回収数 633(回収率 44%)、このうち尺度に欠損がない 610 を分析対象とした。

1) 対象者の背景

女性 526 人(86.2%)、男性 84 人(13.8%)、平均年齢は 38.3 ± 9.9 、看護師経験年数は 15 ± 9.6 、現在勤務している職場の経験年数は 6.9 ± 7.2 であった。職位は看護副師長(看護係長・主任) 128 人(21%)、スタッフ 478 人(78.4%)、無回答 4 人(0.6%) であった。最終学歴は専門学校・養成所卒が 474 人(77.7%)、短期大学卒が 44 人(7.2%)、大学卒が 88 人(14.4%)、大学院(修士課程修了) 1 人(0.2%)、大学院(博士課程修了) が 1 人(0.2%) であった。病院の設置主体は国立 39(6.4%)、公立 248(40.7%)、公的 20(3.3%)、社会保険関係団体 27(4.4%)、社団法人・財団法人 86(14.1%)、医療法人 113(18.5%)、その他 19(3.1%) であった。病院の病床数は 800 床以上 13(2.1%)、500 床以上~800 床未満 111(18.2%)、300 床以上~500 床未満 476(78%)、無回答 10(1.6%) であった。看護方式はチームナーシング 389(63.8%)、プライマリーナーシング 161(26.4%)、機能別看護方式 37(6.1%)、モジュール型看護方式 51(8.4%)、パートナーシップ制 135(22.1%) であった。看護領域は外科系病棟が 126(18.4%)、内科系病棟 182(26.6%)、小児病棟 33(4.8%)、産婦人科病棟 35(5.1%)、ICU・CCU 53(7.7%)、精神科病棟 149(21.8%)、その他 106(15.6%) であった。

2) 項目分析

臨床判断力尺度原案 44 項目のうち、天井効果がみられた項目および項目間相関において相関係数が 0.7 以上だった項目を削除し、計 23 項目とした。

3) 探索的因子分析

最尤法、プロマックス回転による因子分析の結果、因子の解釈可能性から 2 因子とした。第 1 因子は「推論する力」(13 項目)と命名した。第 2 因子は「観察により初期把握する力」(10 項目)と命名した。Cronbachs' 係数は第 1 因子が 0.943、第 2 因子が 0.924、全体が 0.965 で十分な値を得た。

4) 確証的因子分析

確証的因子分析の結果、モデルの適合度は $GFI=0.874$ 、 $AGFI=0.849$ 、 $CFI=0.933$ 、 $RMSEA=0.07$ と良好であった。

本研究で開発した臨床判断力尺度 2 因子 23 項目は、信頼性と妥当性を備えていることが検証された。

< 引用文献 >

- ・Corcoran, S.A(1990):看護におけるClinical Judgmentの基本的概念,看護研究,23(4), 352-359.
- ・Christine A.Tanner(2006):Thinking Like a Nurse: A Research-Based Model of Clinical Judgment in Nursing,Journal of Nursing Education,45(6),204-211.
- ・Benner, P, (1992):ベナー看護論 達人ナースの卓越性とパワー,医学書院,東京.
- ・吉田沢子,久世恵美子,上山 和子他(2002):看護師の臨床判断能力の実態,日本看護学教育

学会誌 12(1), P27-35.

- ・ Benner , P Christine A.Tanner Chesla,C (2015) :ベナー 看護実践における専門性 達人になるための思考と行動, 医学書院, 東京 .
- ・ Christine A.Tanner(2000):和泉成子訳, 看護実践における Clinical Judgment, インターナショナルナーシングレビュー, 33(4),66-77.
- ・ Rhodes B(1985) :Occupational ideology and clinical decision making in British nursing. International Journal of Nursing Studies, 22 , 3 , 241-257 .

5 . 主な発表論文等

[学会発表](計1件)

川瀬淑子、宮下美香、岡安誠子、平井由佳 : 看護師の臨床判断プロセスにおける臨床判断力の要素、第38回日本看護科学学会学術集会、2018.12 松山市 .

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

川瀬淑子 (KAWASE, Yoshiko)

島根県立大学看護栄養学部・准教授

研究者番号 : 80642652

(2) 研究分担者

岡安誠子 (OKAYASU, Masako)

島根県立大学看護栄養学部・准教授

研究者番号 : 30346712

平井由佳 (HIRAI, Yuka)

島根県立大学看護栄養学部・准教授

研究者番号 : 20335524